12月のTLG　No160

日本のモノづくり文化とダイハツ問題

12月20日にダイハツは新たに見つかった174個の不正行為を第3者委員会の報告として発表し、全工場の生産を停止しました。経緯は新聞・TVなどで報道されていますので、皆さんご存じだと思います。当社もダイハツの部品を製造していますので、生産停止は当社の経営に影響がありますが、現時点では軽微と思われます。ところで今回の不正の深層というのは、私たち自動車産業に従事している者として決して他人事ではないものがあると感じています。というのは過酷な競争の中でいかに開発競争に勝ち他社に先行するかが問われており、それが常にプレッシャーとしてあります。日々改善を開発と生産に取り入れ、新しい材料と手法で軽量化、しかも短納期で前回は12か月の開発期間だったが、今回は10か月で2か月短く作り上げる、それが暗黙の了解事項となって開発を進めざるを得ない。

そのために開発締め切りまでにチャンピオン品を作り上げ、承認を取り、それから量産開始（LO）までの3か月間に力技で課題を解決する、という手法で対応していく場合もあります。

もちろん量産開始までには正規の工程で対応できるように組上げますが、その間は結構な「力技」すなわち特別対応をする場合があります。この「力技」が日本の自動車製造技術が世界NO1である根幹ともいえますし、私たちはこの「力技」を伝統として若い世代に引き継いでいかねばなりません。

最近自動運転に関してレベル４の採用が見送られたり、搭載車の発売が延期されたりしているのはこの不正問題が影響しているように思えます。見切り発車して、マイナーチェンジで改修という今までの自動車開発ストーリーはもう過去のものになったようです。最初から完璧なものを提供しなければならない時代になってきました。そのためには「新材料＋新技術＋短納期＋働き方改革」を「新材料・技術+十分な納期+十分な働く時間」という考え方に変えることも必要だと思います。

ダイハツ、全工場停止

品質不正　社長「経営陣に責任」

ダイハツ工業は20日、国内外の全工場で、自社で開発した自動車の出荷を停止すると発表した。新車の安全性を確認する試験などの不正が新たに174件見つかったことを受け、生産も停止する。開発期間の短縮を優先し、順法意識に乏しい企業風土が浮き彫りになった。自動車の品質不正（3面きょうのことば）を受け、国土交通省は21日にダイハツ本社に立ち入り検査する。（関連記事3、15面に）

20日、品質不正問題を受け記者会見するダイハツの奥平社長

国内再開めど立たず

不正は25の試験項目に64車種と3つのエンジンおよび、現在国内で生産で、親会社のトヨタ自動・開発中の28車種すべて車が販売する22車種も含で見つかった。対象は生まれる。20日に記者会見産終了したものも含めてしたダイハツの奥平総一郎社長は「責任は経営陣にある」と話した。

不正が見つかった車種にはマツダやSUBARUにOEM（相手先ブランドによる生産）供給する自動車も含まれる。ダイハツは国内の小型車で3割程度のシェアを持ち、スズキと首位を争う。生産再開には国交省の監査が必要で、生産停止が長期に及べば小型車の供給に影響が出るのは避けられない。

斉藤鉄夫国交相は「自動車認証制度の根幹を揺るがす行為であり、断じて許されない」と断罪し、「（立ち入り検査の）結果を踏まえて厳正に対処していく」と話した。国交省は検査には相当の時間がかかるとみる。ダイハツの奥平社長は「生産再開の時期は全く答えられる状況にない」と述べた。

不正が見つかった車種については、性能が基準を満たすかどうかについてダイハツが技術検証などを実施した。一部の車種は基準に適合していない可能性があり、リコールに発展する可能性もある。

生成A

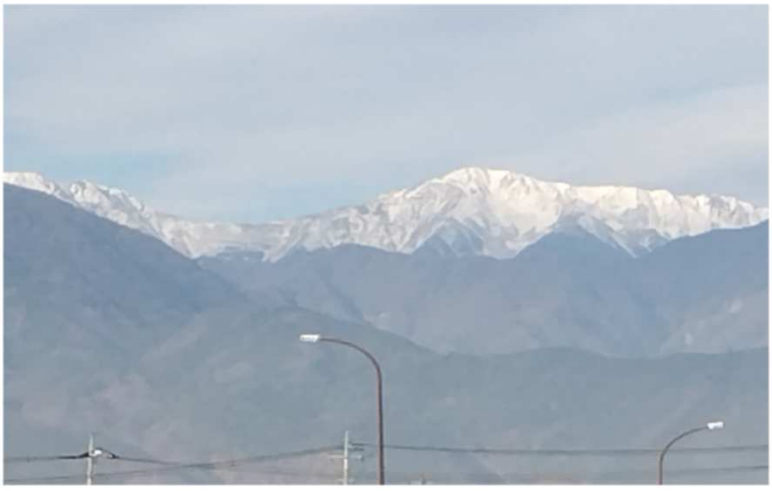
文化庁は20日、生成AI（人工知能）と著作権のあり方を検討する文化審議会の小委員会で、著

ダイハツの人気車種ムーブとコペン、左は生産中止を伝える新聞記事

美しい日本の山！

お客様のところや工場などへ行く途中に、素晴らしい景色に出会うときがあります。
今回はその中でも山の景色を紹介します。とはいっても皆さん何度もご覧になっていると思いますが、山好きの私は何度見ても感動するのです。今回は新幹線からの富士山と身延線の車窓からの南アルプス北岳の雄姿です。おまけで、阿蘇の外輪山も。

12月7日　静岡出張の際の新幹線からの富士山の姿。いつ見ても、何度見てもこの雪をかぶった富士山は美しく
日本を代表する風景だと思います。
あいにく今年は暖冬で12月というのに雪は8合目くらまででしたが、なだらかな裾野はいつ見ても優美です。



こちらは12月27日暮れも押し迫った時の南アルプス北岳です。山梨の工場からの眺めは素晴らしく、朝日を受けた白銀の山は神々しくも見えます。
実は北岳は標高3193ｍと日本で富士山に次ぐ2番目の高さを誇る山なのです。
この姿を毎日見れる山梨は素晴らしい。

これは12月30日の阿蘇外輪山と阿蘇山、天孫降臨の宮崎高千穂神社を暮れに訪ねた際に立ち寄ってきました。静かに漂う朝もやの先に雄大なカルデラです。阿蘇の外輪山はいかにも九州男児という荒々しさを前面に出していますが、静かなカルデラの風景は日本の原風景のようなやさしさを感じます。